

このへて、再び戦ひの首途に登らんとするその意氣を壯とするものである。

私にもし、運命をさへあるならば、必ずや、手懸當時費消した、一万八千圓の基金だけでも、

一人で寄附したいと思つてゐる。

さはあれ、こゝに、終始一貫、熱烈なる御聲援を賜つた來賓の方々へ、今後とも相かはらざる御後援

を、御同情を御願ひし、本夕の總會を閉ぢたいと思ふ。

終りに望み、會長に御願して、

「同友會」の萬歳を三唱しないと思ふ」

さて、満場起立の程に、久留會長、壇上に進み出で、

「郵司同友會萬歳！」「萬歳！」「萬歳！」三唱！拍手！

折柄大塚本部主事の發聲で、

「商船同志會萬歳！」「萬歳！」「萬歳！」

三唱して、無事本總會は終りを了したのであつた。

四、大 會 後 記

五月八日久留會長、五月九日竹内支部長は歸濱された。

平素は絶えて相會ふことの出来なかつた會員諸君も、當夜の楽しかつた思出を夫々各船へ歸つて肩を振つてゐるこゝであらう。

そつた、當夜在港船名を報告するのを忘れてゐた。

春洋丸、熱田丸、賀茂丸、上海丸、鶴岡丸、春日丸、飛鳥丸、大和丸の八隻で可なり船は多かつた。

向當夜御來席下さつた、

掖濟會、連英舍及各労働團體の幹部、又新、民潮、東洋海事、日本海陸、日本労働通信社の各位に、

及祝電、祝辭を賜つた方々へ厚く御禮申上げねばならぬ。

尙、本論は急ぎ編輯したので意に滿たぬ點が多々ある。

だが、大休總會の氣分がわかればよいと思ふ。

同志諸君！

未だ同友會に入つてゐない人はいないか？

グツ／＼するのは男の恥ぢた。

遠慮はいらぬ。勇敢に入會し給へ。

そつて共に同友會旗を守り立てやうではないか！

昭和四年度定期總會萬歳！

同友會復活萬歳！

商船同志會との合同萬歳！

(をば)